



■使用評価マニュアル： CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2016 | 使用評価ソフト： CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

評価結果

1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	緑ヶ丘公営住宅 第1棟	階数	地上5F	外観パース等 図を貼り付けるときは シートの保護を解除してください	
建設地	名古屋市守山区緑ヶ丘1010の一部	構造	RC造		
用途地域	第2種中高層住居専用地域、準防火地域	平均居住人員	73 人		
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)		
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2022年9月 予定	評価の実施日	2019年3月5日		
敷地面積	2,867 m ²	作成者			
建築面積	542 m ²	確認日	2019年3月5日		
延床面積	2,367 m ²	確認者			

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
= BEE1.3 ★:S:★★★★★ A:★★★★★ B+:★★★★ B-:★★★ C:★	☆☆☆☆ 100%超:☆☆☆ 100%:☆☆☆ 80%:☆☆☆☆ 60%:30% 標準計算 このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア= 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.3

項目	スコア
音環境	3.0
温熱環境	3.0
光・視環境	2.9
空気質環境	4.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.9

項目	スコア
機能性	2.7
耐用性・信頼性	2.9
対応性・更新性	3.1

Q3 室外環境（敷地内）

Q3のスコア= 2.7

項目	スコア
生物環境	2.0
まちなみ・景観	3.0
地域性・アメニティ	3.0

LR 環境負荷低減性

LR のスコア= 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.8

項目	スコア
建物外皮の	3.0
自然エネ	3.0
設備システ	4.6
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.6

項目	スコア
水資源保護	3.0
非再生材料の使用削減	3.7
汚染物質回避	4.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア=2.7

項目	スコア
地球温暖化への配慮	3.5
地域環境への配慮	2.2
周辺環境への配慮	2.5

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
省エネルギーにより環境に配慮した計画とする。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
室内空気質環境に配慮した。	建物の耐用年数に配慮した。 設備更新に配慮した。	緑地率を確保し、自然との調和を図った。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
エネルギーの効率化を図った。	消化剤・断熱材についてノンフロン材料とし、地球温暖化対策に配慮した。 リサイクル材料を使用した。	駐輪場・駐車場・引っ越し車両置き場を確保して、交通負荷の抑制に配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

緑ヶ丘公営住宅 第1棟

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.5
LR1	エネルギー	3.8	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.5	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.066666667	
2. 自然共生				2.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				3.4
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.7	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.3	0.025	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.5



2. 自然共生

評価点 = 2.3



3. 循環型社会

評価点 = 3.4



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。